

芸術専門学群教育の今

田代 勝

人間総合科学研究科教授

はじめに

筑波大学芸術専門学群は、昭和50年、筑波大学建学理念のもと、幅広い教養を基礎に、芸術に関する専門教育を行うべく創設されたもので、今年30周年を迎える。

遡れば、明治32年の東京高等師範学校手工専修科におけるわが国最初の西歐式芸術教育課程にその源流を求めることができる。そして、東京高等師範学校、東京教育大学と、長い歴史と伝統を継承してきた。

この間、常に時代に先駆けた教育内容を取り入れて、国内外の教育界で先導的役割を果たし、各時代の造形芸術の振興に大きく貢献してきた。

更なる教育・研究活動の改善・活性化と高度化等への発展に資するため、平成15年11月、芸術専門学群は他の芸術3組織と共に、これまでの教育・研究活動や将来構想等について外部評価を受け、概ね良好であるとされた。

芸術専門学群の教育目標と方針

筑波大学芸術専門学群の教育目標並びに方針は、『芸術専門学群履修便覧／シラバス』にも掲げてあるように、以下の通りである。

芸術専門学群は、総合大学の中に位置付けられた芸術教育の場としての特色を生かし、専門教育の深まりとともに、豊かな感性に支えられた柔軟で視野の広い発想力や思考力を具え、創造的活力に溢れた芸術専門家の養成を目標とする。

芸術専門学群は4専攻から成る。『芸術学専攻』は「芸術学コース」と「特別カリキュラム芸術支援学」を備える。『美術専攻』は4コースから成り、「洋画コース」、「日本画コース」、「彫塑コース」、「書コース」、及び「特別カリキュラム版画」を備える。『構成専攻』はコースを備えず、総合造形、クラフト、構成、ビジュアルデザイン等の領域

を包括する。『デザイン専攻』はコースを備えず、情報、プロダクト、環境、建築のデザイン領域を包括する。

教育に当たっては、それぞれの分野の特殊性を尊重して専門性の高い教育を行うとともに、各分野相互の関連を図り、広く他学群の分野にもわたって個人の特性に応じた選択の自由をもたせることによって、ますます情報化・国際化する社会の要請や急速な科学技術の進歩に対応し、知識を応用できる能力と新芸術の創造等を指向する感覚を育てる。

教育体制の変遷

教育目標である「豊かな感性」「柔軟で視野の広い発想力」「豊かな思考力」を具え、創造的で行動力に満ちた芸術専門家養成についてはこれを良しとし、設定以来改定はしていないが、教育目標に対応する教育体制・方針については、各種調査や社会情勢の変化等を踏まえ、自己点検評価委員会や芸術教育体制見直しW.G.、或いは芸術FDW.G.等を設置し、併せてカリキュラム委員会とも連携して検討・改革を推し進めてきた。

本学群は、当初、芸術学、美術、構成、デザインの4専攻10コースで、入学定員70名で開設され、昭和56年、日本画分野の新設及びその他の教育内容整備と充実化を図

るため、定員を100名に改めた。平成4年に、専攻コースに相当しない、様々な専攻に亘って履修する特別カリキュラム「版画」を、7年には特別カリキュラム「窯芸」（13年度以降構成専攻1領域化）をも設けた。また、10年度以降では、専門基礎科目への不満解消に向け、18種新規授業開設による自由選択の大幅拡大化やクラフト分野の新規開設を図った。

平成15年度では、芸術学専攻に、芸術活動の支援・応用について研究・実践する特別カリキュラム「芸術支援学」分野の増設と、構成及びデザインの各専攻でのコース別指導体制を改め、学生個々の関心と能力に合わせた履修が可能となるように改編し、現行4専攻で15のコース・領域の教育体制にいたっている。

芸術専門学群教育の現状と課題

多くの卒業生が専門性を活かして社会の各分野で活躍している状況等からみても、専門家養成を目標に掲げて展開させてきたこれまでの本学群の教育体制は良好であったといえよう。だが、充実した効果的な教育内容、方法等のあり方についての更なる検討を重ねて行かねばならない。そのためにも、本学群では、これまでのFDをW.G.から恒常的な委員会として17年度に立ち上げた。

また、15年度からの、構成とデザイン専攻の統合再編による履修選択の拡大化体制、並びに、芸術力が社会において充分発揮できるよう芸術活動を支援・応用する芸術支援学分野新設について、充分なる教育成果が上げられるよう取り組まねばならない。

一方、これまでのアンケート調査等で、理論と実践の連携、幅広い分野を学ぶ総合性、芸術による社会貢献等の指向傾向があることが判明したことから、これに係る学群カリキュラム改革プロジェクトを編成した。そして、「アート・デザインによる地域創成プロデュース教育」及び「芸術環境形成支援のためのアート・ジャーナリスト養成プログラム」関連の授業科目を開設するなどして取り組みをはじめた。これは、これまでの、美術・デザインの理論・歴史・制作に関するもののみならず、芸術の社会的有用性に関する分野をも含めた教育体制を敷くことで、今日の、大学と地域の関係改変への期待等にも応えるものになると考える。

なお、「アート・デザインによる地域創成プロデュース教育」に係るものは、本学の「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選出された。

おわりに

芸術という括りではあるが、芸術専門学

群は、広義の造形部門のみの教育組織として本学に位置しているもので、主に造形に係る専門教育を展開してきた。

造形は、通常、形をツクルと読むが、造はイタルとも読むから、造形教育は、形を造る教育と、形にいたる教育があつてよく、形を造る教育は、技能や感性の向上を主にした、作品中心＝芸術力のための Art Education。形にいたる教育は、プロセス重視の、即ち造形活動を通して培われる諸能力＝人間力の育成を重視した Education through Artとなる。

総合大学に存する芸術教育。片隅に置いておくのは惜しくありませんか。

(たしろ まさる／美術・彫塑)